

名 称	高樋橋 (通称 おおまたちんかぼし 大股沈下橋)	第 1 種沈下橋
-----	--------------------------	----------

橋梁データ		
管 理 者 名	中土佐町長	
所在市町村・字名	中土佐町大野見大股	
架 橋 年 度	昭和 40 年	
路 線 名	農道高樋久原線	
横断する河川名	四万十川 本川	
周辺環境	地 勢	平地
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	歩道	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	30.1m
	幅 員	1.5m
橋 脚	本 数	4.0 本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	30.0 c m
	天 端 高	10.0 c m
	形 状	直方体



左岸 下流側より (H22.9.14 撮影)



右岸 下流側より (H22.9.14 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

四万十川本川の最上流の沈下橋。透明度が高く下流側にある堰により、水流は穏やかです。夏場は子供達の歓声につつまれる水泳場ですが、今は静寂であり放流された大きな錦鯉が悠々と泳いでいます。

名 称	久万秋橋 <small>くまあきばし</small>	第 1 種沈下橋
-----	----------------------------	----------

橋梁データ		
管 理 者 名	中土佐町長	
所在市町村・字名	中土佐町大野見久万秋	
架 橋 年 度	昭和 39 年	
路 線 名	町道奈路久万秋線	
横断する河川名	四万十川 本川	
周辺環境	地 勢	平地
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	49.0m
	幅 員	3.0m
橋 脚	本 数	6.0 本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	50.0 c m
	天 端 高	10.0 c m
	形 状	直方体



左岸 下流側より (H22.9.14 撮影)



右岸 下流側より (H22.9.14 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

浅瀬で清らかな流れであり、さらさらと流れると表現するのに最適な場所です。

毎年 4 月には、大野見アメゴ釣りの祭りの会場になります。

また近くには、名水、久万秋の湧水があります。

名 称	ながのぼし 長野橋	第 1 種沈下橋
-----	--------------	----------

橋梁データ	
管 理 者 名	中土佐町長
所在市町村・字名	中土佐町大野見横野々
架 橋 年 度	昭和 39 年
路 線 名	町道横野々竹原線
横断する河川名	四万十川 本川
周辺環境	地 勢 平地
	水 流 普通
	水 質 清
通 行	普通車通行可
文化財登録の有無	
重要文化的景観における重要構成要素	該当
代替橋の有無	無
過去 5 年間の修復	
台 帳	橋 長 56.0m
	幅 員 3.0m
橋 脚	本 数 7.0 本
	構 造 鉄筋コンクリート
	形 状 直方体
床 版	厚 さ 50.0 c m
	天 端 高 10.0 c m
	形 状 直方体



右岸 下流側より (H22.9.14 撮影)



右岸 下流側より (H22.9.14 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

鮎の友掛けをする人が多くみられる場所です。

水深が浅く清流なので沈下橋の上から鮎の姿が見ることができます。

名 称	いっとうぼし 一斗俵沈下橋	第 1 種沈下橋
-----	---------------	----------

橋梁データ		
管 理 者 名	四万十町長	
所在市町村・字名	四万十町壱斗俵	
架 橋 年 度	昭和 10 年	
路 線 名	町道米奥壱斗俵線	
横断する河川名	四万十川 本川	
周辺環境	地 勢	山地
	水 流	淀み
	水 質	普通
通 行	通行止	
文化財登録の有無	有	
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	有	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	60.6m
	幅 員	2.5m
橋 脚	本 数	8.0 本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	30.0 c m
	天 端 高	10.0 c m
	形 状	直方体



右岸 下流側より (H22.9.14 撮影)



右岸 上流側より (H22.9.14 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

現存する沈下橋では最も古い橋です。国の登録有形文化財（建造物）に指定されています。壱斗俵と米奥集落を結ぶ橋で、この橋が架かるまでは渡し船が運航されていました。以前は、通学や買い物などの日々の往来に利用されていましたが、現在は老朽化により車両は通行止めとなっています。

名 称	しみずおほし 清水大橋	第 1 種沈下橋
-----	----------------	----------

橋梁データ		
管 理 者 名	四万十町長	
所在市町村・字名	四万十町米奥	
架 橋 年 度	昭和 40 年	
路 線 名	町道米奥北ノ川線	
横断する河川名	四万十川 本川	
周辺環境	地 勢	平地
	水 流	急流
	水 質	普通
通 行	通行止	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	有	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	102.1m
	幅 員	2.8m
橋 脚	本 数	16.0 本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	30.0 c m
	天 端 高	10.0 c m
	形 状	直方体



左岸 上流側より (H22.9.14 撮影)



左岸 下流側より (H22.9.14 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

上流域では一番長い沈下橋です。鮎の友掛けの好漁場で、橋の上からおとり鮎の動きがよく見えるため、釣り人や見物人の賑やかな風景が見られます。現在は、老朽化により車両通行止めとなっています。

名 称	むかいひろせぼし 向弘瀬橋	第 1 種沈下橋
-----	------------------	----------

橋梁データ		
管 理 者 名	四万十町長	
所在市町村・字名	四万十町弘瀬	
架 橋 年 度	昭和 38 年	
路 線 名	町道弘瀬 7 号線	
横断する河川名	四万十川 本川	
周辺環境	地 勢	山地
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	62.1m
	幅 員	2.5m
橋 脚	本 数	9.0 本
	構 造	鉄筋コンクリート
床 版	形 状	直方体
	厚 さ	20.0 c m
	天 端 高	10.0 c m
	形 状	直方体



右岸 上流側より (H22.9.27 撮影)



右岸 下流側より (H22.9.27 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

弘瀬集落の本村と対岸を結ぶ沈下橋で、農作業や往来等地域の生活を支えています。

左岸側にはスロープがあり、夏は子供達の川遊びで賑わいます。

また、本流の沈下橋の中では、橋から水面までの距離が最も短いと感じられます。

名 称	じょうぐらぼし 上宮橋	第 1 種沈下橋
-----	----------------	----------

橋梁データ	
管 理 者 名	四万十町長
所在市町村・字名	四万十町上宮
架 橋 年 度	昭和 32 年
路 線 名	町道北ノ川上宮線
横断する河川名	四万十川 本川
周辺環境	地 勢 山地
	水 流 普通
	水 質 清
通 行	普通車通行可
文化財登録の有無	
重要文化的景観における重要構成要素	該当
代替橋の有無	無
過去 5 年間の修復	
台 帳	橋 長 85.1m
	幅 員 2.9m
橋 脚	本 数 13.0 本
	構 造 鉄筋コンクリート
	形 状 直方体
床 版	厚 さ 30.0 c m
	天 端 高 10.0 c m
	形 状 直方体



左岸 下流側より (H22.9.27 撮影)



右岸 上流側より (H22.9.27 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

大正北ノ川集落と上宮集落を結ぶ沈下橋です。上宮集落には上船戸、中船戸、下船戸の 3 ヶ所の渡し場があり、この橋が架けられるまでは渡し船が運航されていました。国道 381 号から望む場所にあり、四万十川と共に営みを続けてきた流域住民の文化を知る重要な景観となっています。

名 称	向山橋 (通称 上岡沈下橋)	第 1 種沈下橋
-----	----------------	----------

橋梁データ		
管 理 者 名	四万十町長	
所在市町村・字名	四万十町上岡	
架 橋 年 度	昭和 38 年	
路 線 名	町道上岡打井川線	
横断する河川名	四万十川 本川	
周辺環境	地 勢	山地
	水 流	急流
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	60.0m
	幅 員	3.7m
橋 脚	本 数	3.0 本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	50.0~120.0 c m
	天 端 高	10.0 c m
	形 状	直方体



左岸 下流側より (H22.9.27 撮影)



左岸 上流側より (H22.9.27 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

上岡集落の本村と対岸の向山を結ぶ沈下橋で、地元では「上岡沈下橋」とも呼ばれています。

この橋は急流に架かるため水の抵抗を考慮した曲線形状となっているのが特徴で、力強く、美しい独特の構造から個性的な橋として知られています。

名 称	里川橋	第 1 種沈下橋
-----	-----	----------

橋梁データ		
管 理 者 名	四万十町長	
所在市町村・字名	四万十町浦越	
架 橋 年 度	昭和 29 年	
路 線 名	町道里川線	
横断する河川名	四万十川 本川	
周辺環境	地 勢	山地
	水 流	普通
	水 質	普通
通 行	歩行者通行可	
文化財登録の有無	有	
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	有	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	84.0m
	幅 員	3.0m
橋 脚	本 数	13.0 本 (欠 1)
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	30.0 c m
	天 端 高	10.0 c m
	形 状	直方体



右岸 上流側より (H22.9.27 撮影)



左岸 下流側より (H22.9.27 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

建設当初は、橋脚は 13 本でしたが洪水により度々流出したため、中央部の橋脚を 1 本空けて復旧すると流出が無くなったことから、橋脚の幅が不均等になっています。車両通行止めとなっています。国の登録有形文化財（建造物）に指定されています。

名 称	新谷橋 (通称 茅吹手沈下橋)	第 1 種沈下橋
-----	-----------------	----------

橋梁データ		
管 理 者 名	四万十町長	
所在市町村・字名	四万十町津賀	
架 橋 年 度	昭和 45 年	
路 線 名	町道里川屋敷線	
横断する河川名	四万十川 本川	
周辺環境	地 勢	山地
	水 流	普通
	水 質	普通
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	84.0m
	幅 員	3.0m
橋 脚	本 数	5.0 本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	90.0 c m
	天 端 高	10.0 c m
	形 状	直方体



右岸 上流側より (H22.9.16 撮影)



左岸 下流側より (H22.9.16 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

地元では「茅吹手沈下橋」と呼ばれ、橋が架かるまでは渡し船が運航されていました。

この沈下橋は、平成 9 年の J R「フルムーンポスター」に利用され、俳優の加山雄三夫妻がロケに訪れました。

名 称	第一三島橋	第 1 種沈下橋
-----	-------	----------

橋梁データ		
管 理 者 名	四万十町長	
所在市町村・字名	四万十町昭和	
架 橋 年 度	昭和 41 年	
路 線 名	町道昭和戸口線	
横断する河川名	四万十川 本川	
周辺環境	地 勢	山地
	水 流	普通
	水 質	普通
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	77.0m
	幅 員	3.3m
橋 脚	本 数	5.0 本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	50.0 c m
	天 端 高	10.0 c m
	形 状	直方体



左岸 上流側より (H22.9.16 撮影)



右岸 下流側より (H22.9.16 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

四万十川最大の中州である三島を結ぶ沈下橋で国道 381 号側が第一三島橋、対岸の轟集落側が第二三島橋です。

中州は水田として利用されており、以前は渡し船で往来していましたが、沈下橋完成後は農作業も大きく向上しました。

中州にはキャンプ場があります。

名 称	だいにみしまばし 第二三島橋	第 1 種沈下橋
-----	-------------------	----------

橋梁データ		
管 理 者 名	四万十町長	
所在市町村・字名	四万十町昭和	
架 橋 年 度	昭和 42 年	
路 線 名	町道昭和戸口線	
横断する河川名	四万十川 本川	
周辺環境	地 勢	山地
	水 流	急流
	水 質	普通
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	有	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	55.0m
	幅 員	3.3m
橋 脚	本 数	4.0 本
	構 造	鉄筋コンクリート
床 版	形 状	直方体
	厚 さ	50.0 c m
	天 端 高	10.0 c m
	形 状	直方体



右岸 下流側より (H22.9.16 撮影)



右岸 上流側より (H22.9.16 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

四万十川は中州、三島で分流され、右岸側が第一三島橋、左岸側が第二三島橋です。以前は渡し船が運航されており、左岸側は急流で「轟の瀬」と呼ばれ、古来より往来の難所として知られていました。中州、三島という独特の地形の中での農業は、四万十川に季節ごとの彩を添えています。

名 称	半家橋	第 1 種沈下橋
-----	-----	----------

橋梁データ	
管 理 者 名	四万十市長
所在市町村・字名	四万十市西土佐半家
架 橋 年 度	昭和 35 年
路 線 名	市道川平半家線
横断する河川名	四万十川 本川
周辺環境	地 勢 急峻
	水 流 普通
	水 質 清
通 行	普通車通行可
文化財登録の有無	
重要文化的景観における重要構成要素	該当
代替橋の有無	無
過去 5 年間の修復	
台 帳	橋 長 124.5m
	幅 員 3.3m
橋 脚 本 数	15.0 本
	構 造 鉄筋コンクリート
	形 状 直方体
床 版 厚 さ	45.0 c m
	天 端 高 10.0 c m
	形 状 直方体



右岸 下流側より (H22.9.14 撮影)



左岸 上流側より (H22.9.14 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

四万十川ウルトラマラソンに代表される撮影ポイント。
 右岸側は河床に岩盤が露出しており水は橋中心部に集中しやや急流となっています。
 上流部にある高い位置の抜水橋と水辺に近い沈下橋が同時に見られる景色のよい場所です。

名 称	中半家橋	第 1 種沈下橋
-----	------	----------

橋梁データ		
管 理 者 名	四万十市長	
所在市町村・字名	四万十市西土佐半家	
架 橋 年 度	昭和 51 年	
路 線 名	市道本村中半家線	
横断する河川名	四万十川 本川	
周辺環境	地 勢	山地
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	2 輪車以下通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	有	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	125.9m
	幅 員	4.3m
橋 脚	本 数	9.0 本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	60.0 c m
	天 端 高	10.0 c m
	形 状	直方体



左岸 下流側より (H22.9.14 撮影)



右岸 上流側より (H22.9.14 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

沈下橋、抜水橋、JR 鉄橋の三橋が平行にかかる珍しい場所です。現在、車輛は通行止となっているので、のんびり歩いて渡りながら、橋の真ん中で、寝そべて四万十川と会話をするには最高の沈下橋です。

名 称	ながおいちんかぼし 長生沈下橋	第 1 種沈下橋
-----	--------------------	----------

橋梁データ	
管 理 者 名	四万十市長
所在市町村・字名	四万十市西土佐長生
架 橋 年 度	昭和 35 年
路 線 名	市道半家長生線
横断する河川名	四万十川 本川
周辺環境	地 勢 山地
	水 流 普通
	水 質 清
通 行	普通車通行可
文化財登録の有無	
重要文化的景観における重要構成要素	該当
代替橋の有無	無
過去 5 年間の修復	H.21.8/8~8/10 台風 9 号により被災 H22.2 月修復
台 帳	橋 長 120.0m
	幅 員 3.3m
橋 脚	本 数 9.0 本
	構 造 鉄筋コンクリート
	形 状 直方体
床 版	厚 さ 50.0 c m
	天 端 高 10.0 c m
	形 状 直方体



左岸 上流側より (H22.9.14 撮影)



右岸 下流側より (H22.9.14 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

一部台風により流失しましたがすぐに復旧し、現在も現役で活躍している沈下橋です。

キャンプやカヌーで観光客が多く訪れます。

名 称	いわきおおほし 岩間大橋	第 1 種沈下橋
-----	-----------------	----------

橋梁データ		
管 理 者 名	四万十市長	
所在市町村・字名	四万十市西土佐岩間	
架 橋 年 度	昭和 41 年	
路 線 名	市道岩間茅生線	
横断する河川名	四万十川 本川	
周辺環境	地 勢	急峻
	水 流	普通
	水 質	普通
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	120.0m
	幅 員	3.5m
橋 脚	本 数	9.0 本
	構 造	鋼管
	形 状	直方体+丸
床 版	厚 さ	50.0 c m
	天 端 高	10.0 c m
	形 状	直方体



左岸 下流側より (H22.9.14 撮影)



右岸 下流側より (H22.9.14 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

ポスターやパンフレットでおなじみの沈下橋です。

鏡のような清流に青い空と緑の山々が映し出され、最高に風景のよい場所です。

右岸下流側は河原となっており、キャンプをするのに最適です。

名 称	屋内大橋 (通称 <small>くちやないらんかぼし</small> 口屋内沈下橋)	第 1 種沈下橋
-----	--	----------

橋梁データ		
管 理 者 名	四万十市長	
所在市町村・字名	四万十市西土佐口屋内	
架 橋 年 度	昭和 30 年	
路 線 名	市道口屋内字和島線屋内大橋支線	
横断する河川名	四万十川 本川	
周辺環境	地 勢	山地
	水 流	普通
	水 質	普通
通 行	H.22.8.28 から沈下により通行止	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	有	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	241.3m
	幅 員	4.05m
橋 脚	本 数	9.0 本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	80.0 c m
	天 端 高	10.0 c m
	形 状	直方体



右岸 下流側より (H22.9.13 撮影)



左岸 下流側より (H22.9.13 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

H22.8 月から沈下し、現在は通行止めとなっています。

秘境黒尊川へと渡る沈下橋であり早急な復旧が待たれます。

名 称	勝間橋 (通称 鶺ノ江沈下橋)	第 1 種沈下橋
-----	-----------------	----------

橋梁データ		
管 理 者 名	四万十市長	
所在市町村・字名	四万十市平本	
架 橋 年 度	昭和 40 年	
路 線 名	市道鶺ノ江久保川線	
横断する河川名	四万十川 本川	
周辺環境	地 勢	山地
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	171.4m
	幅 員	4.4m
橋 脚	本 数	14.0 本
	構 造	鋼管
	形 状	直方体+丸
床 版	厚 さ	50.0 c m
	天 端 高	10.0 c m
	形 状	直方体



左岸 下流側より (H22.9.13 撮影)



左岸 上流側より (H22.9.13 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

橋脚が鋼管でできている沈下橋は四万十川本川に 5 箇所ありますがこの沈下橋だけ橋脚が 3 本でつくられています。川幅が広く、水はゆっくりと流れています。右岸側は河原となっているので、キャンプには最適な場所です。平成 15 年の釣りバカ日誌 14 の撮影場所として有名です。

名 称	高瀬橋	第 1 種沈下橋
-----	-----	----------

橋梁データ		
管 理 者 名	四万十市長	
所在市町村・字名	四万十市下入道	
架 橋 年 度	昭和 48 年	
路 線 名	市道高瀬線	
横断する河川名	四万十川 本川	
周辺環境	地 勢	山地
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	232.3m
	幅 員	3.4m
橋 脚	本 数	14.0 本
	構 造	鋼管
	形 状	直方体+丸
床 版	厚 さ	65.0 c m
	天 端 高	10.0 c m
	形 状	直方体



右岸 下流側より (H22.9.13 撮影)



左岸 下流側より (H22.9.13 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

この橋も鋼管の橋脚で作られています。
川幅も広く、清流がゆっくりと流れ、時がたつのを忘れそうなくらいです。

名 称	みさとぼし (通称 深木沈下橋)	第 1 種沈下橋
-----	------------------	----------

橋梁データ		
管 理 者 名	四万十市長	
所在市町村・字名	四万十市能ヶ渡	
架 橋 年 度	昭和 38 年	
路 線 名	市道具同三里線	
横断する河川名	四万十川 本川	
周辺環境	地 勢	山地
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	145.8m
	幅 員	3.3m
橋 脚	本 数	12.0 本
	構 造	鋼管
	形 状	直方体+丸
床 版	厚 さ	50.0 c m
	天 端 高	10.0 c m
	形 状	直方体



左岸 下流側より (H22.9.13 撮影)



右岸 上流側より (H22.9.13 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

左岸下流側に広い河原があり、沈下橋を下り、散歩しながらゆっくりと見ることができます。
キャンプするには良い場所ですが河原には、車輛は進入できません。

名 称	いまなりばし 今成橋 (通称 佐田沈下橋)	第 1 種沈下橋
-----	--------------------------	----------

橋梁データ	
管 理 者 名	四万十市長
所在市町村・字名	四万十市今成向イ
架 橋 年 度	昭和 46 年
路 線 名	市道佐田今成線
横断する河川名	四万十川 本川
周辺環境	地 勢 山地
	水 流 普通
	水 質 清
通 行	普通車通行可
文化財登録の有無	
重要文化的景観における重要構成要素	該当
代替橋の有無	無
過去 5 年間の修復	
台 帳	橋 長 291.6m
	幅 員 4.2m
橋 脚	本 数 19.0 本
	構 造 鋼管
	形 状 直方体+丸
床 版	厚 さ 60.0 c m
	天 端 高 10.0 c m
	形 状 直方体



右岸 上流側より (H22.9.13 撮影)



左岸 下流側より (H22.9.13 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

四万十川最下流の沈下橋です。川幅も約 300m あり、四万十市内から近く、多くの観光客が訪れます。屋形船に乗り沈下橋をバックに結婚式を挙げるなどよくテレビなどで放映されています。

名 称	おおひらばし 大平橋	第 1 種沈下橋
-----	---------------	----------

橋梁データ		
管 理 者 名	中土佐町長	
所在市町村・字名	中土佐町大野見下ル川	
架 橋 年 度	昭和 45 年	
路 線 名	農道大平線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川下ル川	
周辺環境	地 勢	山地
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	2 輪車以下通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素		
代替橋の有無	無	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	14.0m
	幅 員	2.0m
橋 脚	本 数	1.0 本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	30.0 c m
	天 端 高	10.0 c m
	形 状	直方体



右岸 上流側より (H22.9.14 撮影)



左岸 下流側より (H22.9.14 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

第一次支川下ル川に架かるただ一つの沈下橋です。
山間部の中にあり人家も少なく清流が流れています。
地図にも記載が無く自然の中に溶け込んでいる為、見過ごしてしまいそうになります。

名 称	寺野橋	第 2 種沈下橋
-----	-----	----------

橋梁データ		
管 理 者 名	四万十町長	
所在市町村・字名	四万十町寺野	
架 橋 年 度	昭和 39 年	
路 線 名	町道川口中屋敷線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川井細川	
周辺環境	地 勢	山地
	水 流	急流
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素		
代替橋の有無	無	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	20.4m
	幅 員	2.0m
橋 脚	本 数	2.0 本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	30.0 c m
	天 端 高	10.0 c m
	形 状	直方体



右岸 下流側より (H22.9.27 撮影)



左岸側より (H22.9.27 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

右岸の寺野集落と対岸を結ぶ沈下橋で、農作業や往来に利用されています。

周辺にキャンプに来る人もいます。

名 称	テバコ ^{ぼし} 橋	第 1 種沈下橋
-----	---------------------	----------

橋梁データ		
管 理 者 名	四万十町長	
所在市町村・字名	四万十町大正	
架 橋 年 度	不明	
路 線 名	町道葛籠川 4 号線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川葛籠川	
周辺環境	山地	山地
	急流	急流
	清	清
通 行	行き止まり	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素		
代替橋の有無	有	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	14.0m
	幅 員	2.9m
橋 脚	本 数	1.0 本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	20.0 c m
	天 端 高	データなし
	形 状	直方体



左岸 上流側より (H22.9.14 撮影)



右岸 下流側より (H22.9.14 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

左岸側の集落とを結ぶ歩道橋として架設されましたが、下流に永久橋が完成してからは、ほとんど利用されなくなりました。

名 称	井津井谷橋	第 1 種沈下橋
-----	-------	----------

橋梁データ		
管 理 者 名	四万十町長	
所在市町村・字名	四万十町大正	
架 橋 年 度	不明	
路 線 名	町道轟崎 1 号線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川葛籠川	
周辺環境	地 勢	山地
	水 流	急流
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素		
代替橋の有無	無	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	11.0m
	幅 員	2.5m
橋 脚	本 数	1.0 本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	20.0 c m
	天 端 高	データなし
	形 状	直方体



下流側より (H22.9.14 撮影)



左岸 下流側より (H22.9.14 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

左岸の集落から右岸の人家、農地とを結ぶ沈下橋で、現在も生活道として利用されています。

名 称	いしなごばし 石藪橋	第 1 種沈下橋
-----	---------------	----------

橋梁データ		
管 理 者 名	栲原町長	
所在市町村・字名	栲原町後別当	
架 橋 年 度	昭和 48 年	
路 線 名	町道石藪線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川栲原川	
周辺環境	地 勢	急峻
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	30.0m
	幅 員	3.0m
橋 脚	本 数	4.0 本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	40.0 c m
	天 端 高	10.0 c m
	形 状	直方体



右岸 上流側より (H22.9.13 撮影)



右岸 下流側より (H22.9.13 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

後別当集落の国道と対岸（右岸）を結ぶ沈下橋です。
現在もよく利用されています。

名 称	なかがやぼし 中古屋橋	第 1 種沈下橋
-----	----------------	----------

橋梁データ		
管 理 者 名	栲原町長	
所在市町村・字名	栲原町後別当	
架 橋 年 度	昭和 34 年	
路 線 名	町道後別当姥ヶ滝線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川栲原川	
周辺環境	地 勢	急峻
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	有	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	30.0m
	幅 員	2.8m
橋 脚	本 数	4.0 本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	30.0 c m
	天 端 高	10.0 c m
	形 状	直方体



左岸 下流側より (H22.9.13 撮影)



右岸 上流側より (H22.9.13 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

国道から対岸の集落に渡る沈下橋です。現在は、国道改良工事及び下流に永久橋が架設されたことにより、歩道、二輪車道として利用されています。

名 称	新道橋	第 1 種沈下橋
-----	-----	----------

橋梁データ		
管 理 者 名	栲原町長	
所在市町村・字名	栲原町川口	
架 橋 年 度	昭和 50 年	
路 線 名	町道川口新道線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川栲原川	
周辺環境	地 勢	急峻
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	24.0m
	幅 員	2.4m
橋 脚	本 数	3.0 本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	35.0 c m
	天 端 高	10.0 c m
	形 状	直方体



右岸 上流側より (H22.9.13 撮影)



左岸 下流側より (H22.9.13 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

川口の集落から対岸の集落に通ずる沈下橋で、毎日、生活道として利用されています。

名 称	かわづのぼし 川角橋	第 1 種沈下橋
-----	---------------	----------

橋梁データ	
管 理 者 名	梶原町長
所在市町村・字名	梶原町宮野々上
架 橋 年 度	昭和 35 年
路 線 名	町道宮野々上線
横断する河川名	四万十川 第1次支川梶原川 第2次支川四万川
周辺環境	地 勢 急峻
	水 流 普通
	水 質 清
通 行	普通車通行可
文化財登録の有無	
重要文化的景観における重要構成要素	
代替橋の有無	有
過去 5 年間の修復	平成 17 年の洪水に左岸側の床版が被災し修復
台 帳	橋 長 29.9m
	幅 員 2.3m
橋 脚	本 数 4.0 本
	構 造 鉄筋コンクリート
	形 状 直方体
床 版	厚 さ 30.0 c m
	天 端 高 10.0 c m
	形 状 直方体



左岸 下流側より (H22.9.13 撮影)



右岸 上流側より (H22.9.13 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

県道から対岸の集落へ渡る沈下橋です。

下流側に永久橋が架設され、現在は通行量が少なくなりました。

平成 17 年の洪水に左岸側の床版が被災し修復しました。

名 称	たけの藪 ^{やぶ} 沈下橋 ^{しかげ} (通称)	第 1 種沈下橋
-----	--	----------

橋梁データ	
管 理 者 名	栲原町長
所在市町村・字名	栲原町竹の藪
架 橋 年 度	昭和 54 年
路 線 名	農道成藪線
横断する河川名	四万十川 第1次支川栲原川 第2次支川四万川
周辺環境	地 勢 急峻
	水 流 普通
	水 質 清
通 行	歩道
文化財登録の有無	
重要文化的景観における重要構成要素	該当
代替橋の有無	有
過去 5 年間の修復	
台 帳	橋 長 30.2m
	幅 員 2.0m
橋 脚	本 数 4.0 本
	構 造 鉄筋コンクリート
	形 状 直方体
床 版	厚 さ 30.0 c m
	天 端 高 10.0 c m
	形 状 直方体



右岸 下流側より (H22.9.13 撮影)



左岸 上流側より (H22.9.13 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

対岸の人家や農地に渡るために架設された橋です。

沈下橋が架けられる以前は、左岸のエノキの大木に結ばれた一本橋が架けられていました。

下流側に永久橋が完成したため、人の往来はほとんどなくなりました。

名 称	仲間橋 <small>なかいだばし</small>	第 1 種沈下橋
-----	---------------------------	----------

橋梁データ		
管 理 者 名	栲原町長	
所在市町村・字名	栲原町仲間	
架 橋 年 度	昭和 48 年	
路 線 名	農道仲間線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川栲原川 第2次支川四万川	
周辺環境	地 勢	急峻
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	軽四輪車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	42.0m
	幅 員	1.5m
橋 脚	本 数	6.0 本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	30.0 c m
	天 端 高	10.0 c m
	形 状	直方体



左岸 上流側より (H.22.9.13 撮影)



左岸 下流側より (H.22.9.13 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

国道沿いに栲原川が流れ、対岸に渡る橋です。

対岸（右岸）には農地があり、主に農道として利用されています。

名 称	仲久保沈下橋 (通称)	第 1 種沈下橋
-----	-------------	----------

橋梁データ		
管 理 者 名	栲原町長	
所在市町村・字名	栲原町仲久保	
架 橋 年 度	昭和 58 年	
路 線 名	町道山子仲久保線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川栲原川	
周辺環境	地 勢	急峻
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	歩道	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	有	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	30.0m
	幅 員	2.2m
橋 脚	本 数	4.0 本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	35.0 c m
	天 端 高	10.0 c m
	形 状	直方体



左岸 上流側より (H.22.9.13 撮影)



左岸 下流側より (H.22.9.13 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

県道と対岸を結ぶ歩道沈下橋です。
 金剛橋とも呼ばれています。
 上流に永久橋が完成したため、現在は利用者がほとんどいません。

名 称	なかひらちんかぼし 中平沈下橋 (通称)	第 1 種沈下橋
-----	-------------------------	----------

橋梁データ		
管 理 者 名	栲原町長	
所在市町村・字名	栲原町大向	
架 橋 年 度	昭和 31 年	
路 線 名	農道大向山城線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川栲原川	
周辺環境	地 勢	急峻
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	歩道	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	有	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	32.5m
	幅 員	2.0m
橋 脚	本 数	4.0 本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	30.0 c m
	天 端 高	10.0 c m
	形 状	直方体



左岸 上流側より (H.22.9.13 撮影)



右岸 下流側より (H.22.9.13 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

県道と対岸を結ぶ歩道沈下橋です。
上流に永久橋が完成したため、現在は利用者が少ないです。

名 称	こやがうちばし 木屋ヶ内橋	第 1 種沈下橋
-----	------------------	----------

橋梁データ		
管 理 者 名	四万十町長	
所在市町村・字名	四万十町木屋ヶ内	
架 橋 年 度	昭和 28 年	
路 線 名	町道木屋ヶ内 2 号線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川梶原川	
周辺環境	地 勢	急峻
	水 流	急流
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無	有	
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	27.4m
	幅 員	3.0m
橋 脚	本 数	3.0 本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	30.0 c m
	天 端 高	10.0 c m
	形 状	直方体



左岸 上流側より (H.22.9.27 撮影)



左岸 下流側より (H.22.9.27 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

国道と対岸を結ぶ沈下橋ですが、橋が架かるまでは渡し船が運航されていました。

3本の橋脚のうち、2本は自然の岩を利用しており、強固さと経費軽減を図っているのが特徴です。

国の登録有形文化財（建造物）に指定されています。

名 称	サワタリ橋 ^{ばし}	第 2 種沈下橋
-----	---------------------	----------

橋梁データ		
管 理 者 名	四万十町長	
所在市町村・字名	四万十町大正中津川	
架 橋 年 度	不明	
路 線 名	町道中津川 1 号線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川梶原川 第2次支川中津川川	
周辺環境	地 勢	山地
	水 流	急流
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	22.2m
	幅 員	2.3m
橋 脚	本 数	3.0 本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	20.0 c m
	天 端 高	データなし
	形 状	直方体



左岸 下流側より (H22.9.13 撮影)



左岸 上流側より (H22.9.13 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

中津川本村と対岸の水田や川内神社、茶道とを結ぶ地下橋で、現在でも地元住民には欠かせない橋です。

かつては、中津川本村と大正大奈路木屋ヶ内、下津井へ至る道路として重要な役割を果たしていました。

名 称	いちのせぼし 一ノ瀬橋	第 2 種沈下橋
-----	----------------	----------

橋梁データ		
管 理 者 名	四万十町長	
所在市町村・字名	四万十町十和川口	
架 橋 年 度	昭和 33 年	
路 線 名	町道	
横断する河川名	四万十川 第1次支川長沢川	
周辺環境	地 勢	山地
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	歩道	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素		
代替橋の有無	建設中	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	23.0m
	幅 員	2.0m
橋 脚	本 数	3.0 本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	データなし
	天 端 高	データなし
	形 状	直方体



左岸 下流側より (H22.9.16 撮影)



右岸 上流側より (H22.9.16 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

両岸を結ぶ歩道橋として利用されている。

下流側に永久橋が架設されており、完成間近である。

名 称	金刀比羅橋	第 1 種沈下橋
-----	-------	----------

橋梁データ	
管 理 者 名	四万十市長
所在市町村・字名	四万十市西土佐西ヶ方
架 橋 年 度	昭和 40 年
路 線 名	市道金刀比羅線
横断する河川名	四万十川 第1次支川広見川
周辺環境	地 勢 山地
	水 流 普通
	水 質 普通
通 行	普通車通行可
文化財登録の有無	
重要文化的景観における重要構成要素	
代替橋の有無	無
過去 5 年間の修復	
台 帳	橋 長 52.0m
	幅 員 3.0m
橋 脚	本 数 7.0 本
	構 造 鉄筋コンクリート
	形 状 直方体
床 版	厚 さ 40.0 c m
	天 端 高 10.0 c m
	形 状 直方体



右岸 下流側より (H22.9.14 撮影)



左岸 下流側より (H22.9.14 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

広見川に架かる沈下橋です。
200m ほど上流に金刀比羅宮があり、愛媛県境から約 500m の下流に位置します。
平地のため、水の流れがゆるやかです。

名 称	タニガミ橋 (通称 留ヶ奈路沈下橋)	第 1 種沈下橋
-----	--------------------	----------

橋梁データ		
管 理 者 名	四万十市長	
所在市町村・字名	四万十市西土佐大宮	
架 橋 年 度	昭和 36 年	
路 線 名	農道中ヶ市相ノ木線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川目黒川	
周辺環境	地 勢	山地
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	歩道	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素		
代替橋の有無	無	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	18.9m
	幅 員	1.5m
橋 脚	本 数	1.0 本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	50.0 c m
	天 端 高	10.0 c m
	形 状	直方体



左岸 下流側より (H22.9.14 撮影)



右岸 上流側より (H22.9.14 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

平成 9 年に一度流出し、平成 10 年に復旧した沈下橋です。

10 年以上の歳月により色あせており、付近の情景にも違和感なく溶け込んでいます。

目黒川の最上流にある沈下橋であり、清流がさらさらと流れています。

名 称	おきしたちんかぼし (通称 かみふかたちんかぼし) 沖下沈下橋 (通称 上深田沈下橋)	第 1 種沈下橋
-----	--	----------

橋梁データ	
管 理 者 名	四万十市長
所在市町村・字名	四万十市西土佐大宮
架 橋 年 度	昭和 35 年
路 線 名	農道沖下 (仮称) 線
横断する河川名	四万十川 第1次支川目黒川
周辺環境	地 勢 山地
	水 流 普通
	水 質 清
通 行	普通車通行可
文化財登録の有無	
重要文化的景観における重要構成要素	
代替橋の有無	無
過去 5 年間の修復	
台 帳	橋 長 13.5m
	幅 員 2.2m
橋 脚 本 数	1.0 本
	構 造 鉄筋コンクリート
	形 状 直方体
床 版 厚 さ	40.0 c m
	天 端 高 10.0 c m
	形 状 直方体



右岸 下流側より (H22.9.14 撮影)



左岸 下流側より (H22.9.14 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

渇水期でも、橋から水面までの間
が約 50cm 程度しかなく、少しの
雨でも水没してしまうくらい最も
低い沈下橋です。

普通車通行可となっていますが、
橋の両端がカーブしている為、運
転には少し勇気が要ります。

名 称	かみがせほし 上長瀬橋	第 2 種沈下橋
-----	----------------	----------

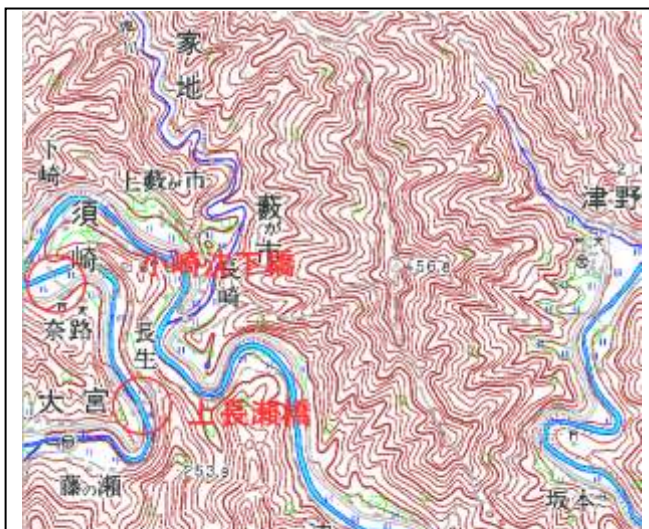
橋梁データ		
管 理 者 名	四万十市長	
所在市町村・字名	四万十市西土佐須崎	
架 橋 年 度	昭和 41 年	
路 線 名	市道藪ヶ内須崎線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川目黒川	
周辺環境	地 勢	山地
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素		
代替橋の有無	無	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	26.0m
	幅 員	3.1m
橋 脚	本 数	3.0 本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	40.0 c m
	天 端 高	10.0 c m
	形 状	直方体



右岸 下流側より (H22.9.14 撮影)



左岸側より (H22.9.14 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

現在も生活道として重要な役割を担う沈下橋です。
水の流れはゆるやかで透明度も高くきれいです。

名 称	こごきちんかぼし 小崎沈下橋	第 2 種沈下橋
-----	-------------------	----------

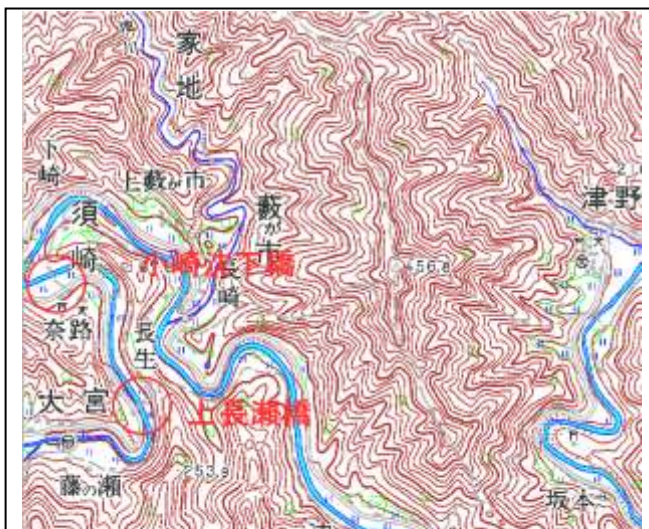
橋梁データ		
管 理 者 名	四万十市長	
所在市町村・字名	四万十市西土佐須崎	
架 橋 年 度	昭和 32 年	
路 線 名	農道小崎線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川目黒川	
周辺環境	地 勢	山地
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素		
代替橋の有無	無	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	21.9m
	幅 員	2.1m
橋 脚	本 数	3.0 本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	30.0 c m
	天 端 高	10.0 c m
	形 状	直方体



右岸 下流側より (H22.9.14 撮影)



左岸側より (H22.9.14 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

県道から少し離れた場所にある為目立たないが、しっかりした沈下橋です。

周辺には須崎地区の集会所や民家が点在しています。

名 称	しもつがほし 下津賀橋	第 2 種沈下橋
-----	----------------	----------

橋梁データ		
管 理 者 名	四万十市長	
所在市町村・字名	四万十市西土佐津賀	
架 橋 年 度	昭和 48 年	
路 線 名	市道津野川大宮線津賀支線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川目黒川	
周辺環境	地 勢	山地
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素		
代替橋の有無	無	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	27.0m
	幅 員	3.4m
橋 脚	本 数	1.0 本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	55.0 c m
	天 端 高	10.0 c m
	形 状	直方体



右岸 上流側より (H22.9.14 撮影)



左岸 下流側より (H22.9.14 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

山間を静かに流れる目黒川に架かる沈下橋です。

付近の河原もきれいで、泳ぐ魚もはっきりと見ることができます。

名 称	小津賀橋	第 2 種沈下橋
-----	------	----------

橋梁データ		
管 理 者 名	四万十市長	
所在市町村・字名	四万十市西土佐津賀	
架 橋 年 度	昭和 34 年	
路 線 名	林道小津賀線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川目黒川	
周辺環境	地 勢	急峻
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素		
代替橋の有無	無	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	42.0m
	幅 員	3.0m
橋 脚	本 数	7.0 本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	30.0 c m
	天 端 高	10.0 c m
	形 状	直方体



左岸 上流側より (H22.9.14 撮影)



右岸 下流側より (H22.9.14 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

目黒川に架かる沈下橋では最も長い沈下橋です。

川幅は広がりますが水が流れる場所は少ししかなく、ほとんどが玉石で構成される河原となっています。

名 称	小津賀橋	第 2 種沈下橋
-----	------	----------

橋梁データ		
管 理 者 名	四万十市長	
所在市町村・字名	四万十市西土佐津賀	
架 橋 年 度	不明	
路 線 名	市道津野川大宮線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川目黒川 第2次支川小津賀川	
周辺環境	地 勢	急峻
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素		
代替橋の有無	無	
過去5年間の修復		
台 帳	橋 長	9.0m
	幅 員	2.2m
橋 脚	本 数	無
	構 造	
	形 状	
床 版	厚 さ	30.0 c m
	天 端 高	10.0 c m
	形 状	直方体



右岸 下流側より (H22.9.14 撮影)



左岸 上流側より (H22.9.14 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

2 次支川小津賀川の最下流に位置する沈下橋です。

うっかりすれば見落とすくらい小さな橋であり、山林の中に溶け込んでいます。

名 称	しらおうぼし (通称 まつがたにちんかぼし) 白玉橋 (通称 松ヶ谷沈下橋)	第 2 種沈下橋
-----	---	----------

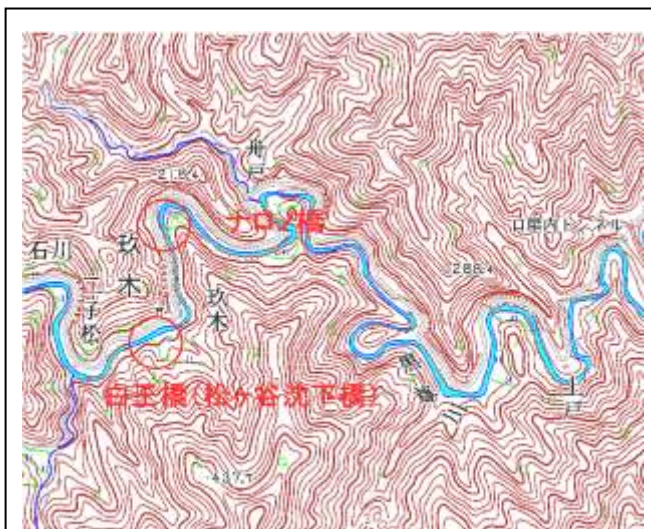
橋梁データ		
管 理 者 名	四万十市長	
所在市町村・字名	四万十市西土佐玖木	
架 橋 年 度	昭和 42 年	
路 線 名	農道白玉線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川黒尊川	
周辺環境	地 勢	急峻
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	20.8m
	幅 員	2.0m
橋 脚	本 数	1.0 本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	50.0 c m
	天 端 高	10.0 c m
	形 状	直方体



右岸 上流側より (H22.9.13 撮影)



右岸 下流側より (H22.9.13 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

四万十川の支流である黒尊川は高知県と愛媛県の県境である三本杭から発する河川であり、貴重な原生林など豊かな自然の中を流れる透明度が最も高いと思われる清流です。

白玉橋はこのような風景に違和感なく溶け込んでいます。

名 称	ナロノ橋 ^{はし}	第 1 種沈下橋
-----	--------------------	----------

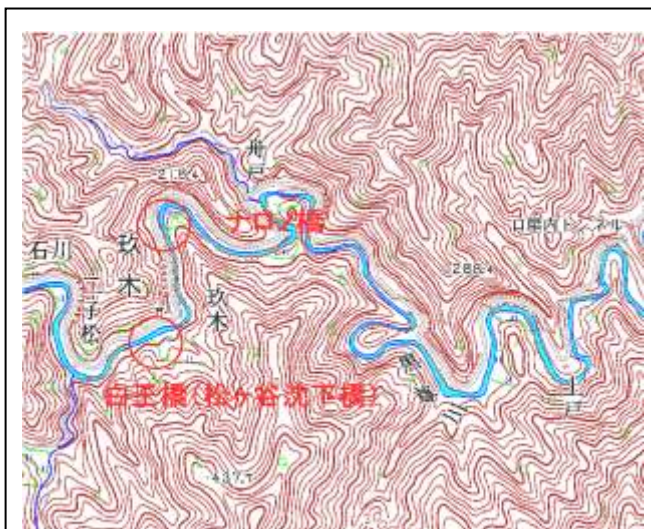
橋梁データ		
管 理 者 名	四万十市長	
所在市町村・字名	四万十市西土佐玖木	
架 橋 年 度	昭和 32 年	
路 線 名	農道ナロノ線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川黒尊川	
周辺環境	地 勢	急峻
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去 5 年間の修復		
台 帳	橋 長	29.7m
	幅 員	3.1m
橋 脚	本 数	4.0 本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	1 小判・3 直方体
床 版	厚 さ	35.0 c m
	天 端 高	10.0 c m
	形 状	直方体



右岸 下流側より (H22.9.13 撮影)



右岸 上流側より (H22.9.13 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

黒尊川に残る 2 つの内の沈下橋であり白王橋より約 500m 下流に位置します。

川底の石の色や大きさまではっきり肉眼で見ることのできる透明度です。

名 称	いわがみぼし 岩神橋	第 1 種沈下橋
-----	---------------	----------

橋梁データ	
管 理 者 名	四万十市長
所在市町村・字名	四万十市下古尾
架 橋 年 度	不明
路 線 名	市道古尾小川線
横断する河川名	四万十川 第1次支川後川 第2次支川内川川
周辺環境	地 勢 急峻
	水 流 普通
	水 質 清
通 行	普通車通行可
文化財登録の有無	
重要文化的景観における重要構成要素	
代替橋の有無	無
過去5年間の修復	
台 帳	橋 長 23.1m
	幅 員 2.4m
橋 脚	本 数 3.0本
	構 造 鉄筋コンクリート
	形 状 直方体
床 版	厚 さ データなし
	天 端 高 データなし
	形 状 データなし



左岸 下流側より (H22.9.13 撮影)



右岸 上流側より (H22.9.13 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

第2次支川内川川に架かる沈下橋
自然豊かな山間部を流れている為
透明度が高く、ほっと一息付ける
沈下橋です。

名 称	番外編 <small>わかいちんかぼし</small> 若井沈下橋 (沈下橋保存対象外沈下橋)
-----	---

橋梁データ	
管 理 者 名	四万十町
所在市町村・字名	四万十町若井
架 橋 年 度	昭和 40 年
路 線 名	
横断する河川名	四万十川 本川
周辺環境	地 勢 平地
	水 流 普通
	水 質 普通
通 行	通行止
文化財登録の有無	
重要文化的景観における重要構成要素	
代替橋の有無	有
過去 5 年間の修復	
台 帳	橋 長 85.0m
	幅 員 2.5m
橋 脚 本 数	11.0 本
	構 造 鉄筋コンクリート
	形 状 直方体
床 版 厚 さ	30.0 c m
	天 端 高 10.0 c m
	形 状 直方体



右岸 上流側より (H22.9.27 撮影)



右岸 下流側より (H22.9.27 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

現在は廃道となっており、町の道路台帳からも外れています。このため、「四万十町下橋保存方針」の対象沈下橋ではありませんが、四万十町から四万十川を下っていると目に入ります。最近は鮎の好漁場のため、橋から網を投げる人も見られます。

名 称	番外編 <small>はやしばし</small> 早瀬橋 (沈下橋原型)
-----	--------------------------------------

橋梁データ		
管 理 者 名	芳生野百石会計	
所在市町村・字名	津野町芳生野	
架 橋 年 度		
路 線 名		
横断する河川名	四万十川 第1次支川北川川	
周辺環境	地 勢	急峻
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	人のみ	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無		
過去5年間の修復		
台 帳	橋 長	25.0m
	幅 員	65.0 c m
橋 脚	本 数	
	構 造	
	形 状	
床 版	厚 さ	
	天 端 高	1.20m
	形 状	



右岸側より (H22.9.27 撮影)



左岸 下流側より (H22.9.27 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

素朴な木橋で人しか通れません。大水の時には流されてしまいますが、橋の片側がワイヤーで繋がっており、水が引いた時にたぐり寄せ、再び石積みの橋脚上に乗せて復旧する、流れに逆らわない「沈下橋の原型」です。

平成14年11月10日に木橋が架け替えられました。